障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

6月号
No. 224 R4/6/1
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～感染再拡大に警戒を～

大型連休後の感染再拡大が懸念されていましたが、連休前と同程度の水準で推移しており、感染の急激な拡大の兆候や病床使用率の上昇は起きていないとされています。

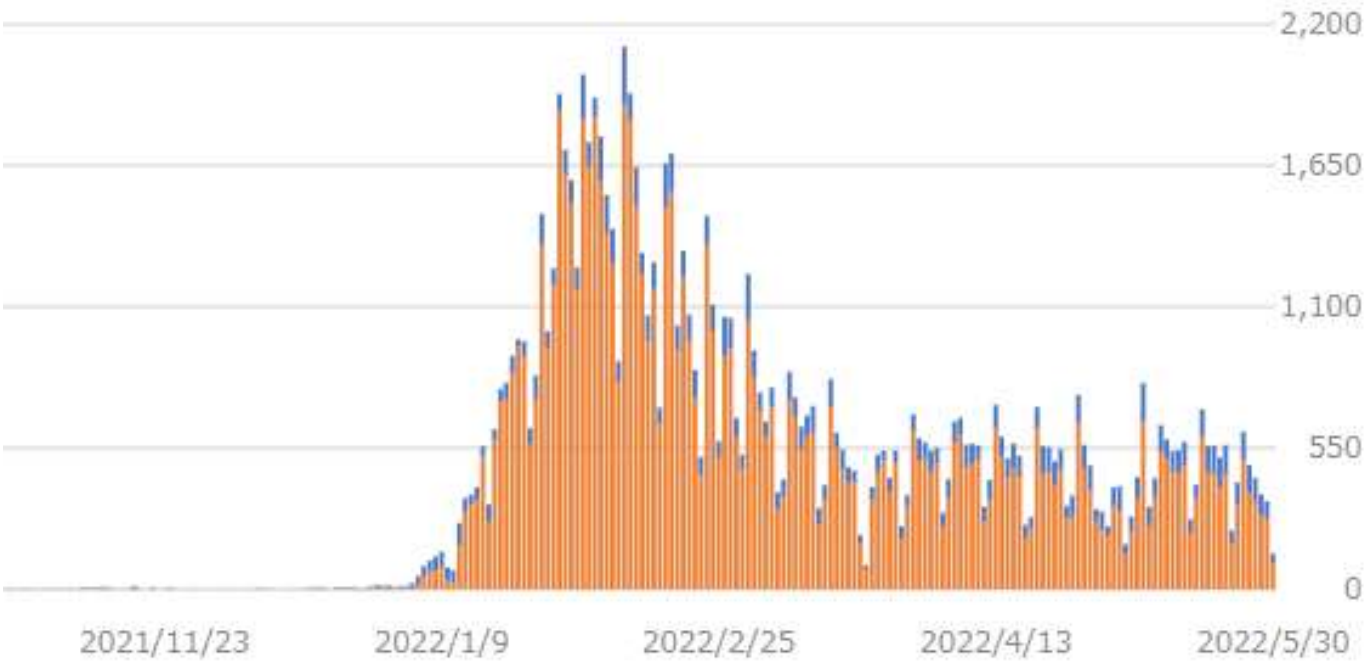
5/23(月)～5/29(日)の市内の新規感染者数は 2,883 名で、前 1 週間比 689 名減と僅かに減少したものの依然高止まりの状況にあります。

こうした中、日常の社会経済活動を取り戻す方向への舵取りも進められようとしていますが、私たち福祉施設ではこれまでと同様細心の感染症対策が必要です。

当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月５月は６件（４月：１０件）で、累計で２２２件となりました。

職員の皆さんにおかれましては、引き続きマスクや手洗いの徹底、密の回避（1 密にも留意）、換気や湿度調節など、基本的な対策を継続していただきますようお願いします。

京都市内の感染者数（日別）



洛南エリアTOPICS　【洛南身障会館:多機能型】

多機能型で卓球バレー大会を開催しました！

昨年度はコロナの感染拡大を受けて、行事を企画しても延期、延期となっていました。そんな中、５月 16 日(月)～21 日(土)にかけて、２回の延期を経て、スポーツ行事『卓球バレー大会』をようやく開催することができました。

しかしまだまだ気の抜けないコロナ禍で、少しでも安心して開催できるように、以下の独自のルールを作りました。

- 密を避けるため、１チーム３人制
- １セット７分で終了。そしてアルコール手指消毒。
- ラケットの共用中止。皆さんマイラケットで。
- 盛り上がりたいところですが、声出しは控えめに…

上記をご利用者の皆さまに説明し、ご理解、ご協力を頂いての開催になりました。

久しぶりの行事で皆さんワクワク！そして『参加するからには負けたくない！』と、熱い思いがひしひしと伝わってきました。

【各曜日の優勝チームで記念撮影】

試合後はノーサイド！皆さん笑顔で記念撮影。

つかの間の楽しい時間もあっという間でした。

これからは、もっともっと楽しい時間が増えていきますように…！

（京都市洛南身体障害者福祉会館 多機能型事業：奈佐 健司）

伏見エリアTOPICS　【グループホーム ふしみ寮】

グループホームふしみ寮　消防定期点検

グループふしみ寮では、年１回消防署員立ち合いの定期点検を実施しています。

消防署員が利用者の各居室・事務所・全体を確認し、消防署に提出した資料を基に消火器が適切な場所に適切に置かれているか、避難経路に障害物が置かれていないか、また確保されているか、正しい使用目的で部屋が使われているかなど、様々なチェック項目があります。指摘を受けたところはその都度改善して、次回の定期点検で評価してもらえるように努めています。

合わせて消防署には、年２回避難訓練で立ち会ってもらい、避難誘導について、避難方法や消火器の適切な使い方などの講評をお願いしています。

また、セコムには年２回火災通報装置や火災通報装置専用電話機の通電、電話回線の確認、非常ベル、報知器等の点検を受け、不具合があるときはその都度交換し、消火器の期限の点検は毎回確認してもらっています。

寮内では火災を防ぐためリビングや各部屋、洗面所、廊下等の随所にスプリンクラーや玄関には避難口誘導灯を設けています。各部屋に防火カーテンや防火カーペットを配置し、電灯はLED化、キッチンはIH化しています。

ふしみ寮では利用者の安全を第一に考え、災害に強いグループホームを目指して、安心して過ごして頂くために日々努力しております。

（ふしみ寮：西村 拓史）

山科エリアTOPICS　【デイスポット「楽」】

今年はイチゴが大豊作

デイスポット楽には、屋上に園芸スペースがあります。日当たり最高で、なかなかこんな好条件の場所はありません。ここで毎年３～４種類の作物を育てていますが、なかでもイチゴは平成２９年の開設当時からずっと継続して栽培しています。

当初は収穫した１個のイチゴを５～６人で分け合うなど、微々たる収穫でも一喜一憂していましたが、毎年少しずつ株を増やし、今年は約２ｋｇの収穫がありました。このイチゴは５月の室内行事でイチゴのムースに変身。全員で美味しくいただきました。いつかは車いすのまま、みんなでイチゴ狩りができる位にまで規模を大きくできればと画策しております。

さてこれから園芸シーズンの本番に突入しますが、今年はスイカにトマトに落花生、ヒョウタンや綿花にチャレンジします。

夏には冷え冷えのスイカやトマトゼリーが待っていますし、ゆでピーナツなんかも家庭菜園でしか、なかなか味わうことのできない醍醐味かなと思います。またヒョウタンや綿花は創作活動でも活躍してくれることでしょう。

捕らぬ狸の皮算用にならないことを願っています。

※現在デイスポット楽では、昨年に収穫した綿花（和綿）の種を配布中です。お気軽に声をお掛け下さい。

（デイスポット「楽」：塚本　太一郎）

鴻巣 麻里香 さんとは

今年の１月から５月にかけて、毎月１回の頻度で行われた研修会に参加しましたので、その研修会の感想や印象に残った部分について報告致します。その研修会は「鴻巣 麻里香(ｺｳﾉｽ ﾏﾘｶ)さん連続講演会」という、名前通りの「鴻巣麻里香さん」という方の講演会で、主催は鴻巣麻里香さん連続実行委員会、支援センター「にしじん」さん等協賛の研修会でした。

まず、この「鴻巣麻里香さん」ですが、皆さん知っておられるでしょうか。私は全く知らず、研修会の案内を見て早速名前をネット検索して知りました。フジテレビ系の「セブンルール」に取り上げられた方でもあり、福島県白河市で活動されているソーシャルワーカーです。下記に簡単に紹介致しますが、より詳しくはネットで検索してください！

―――

精神科医療機関で約 10 年勤務し、東日本大震災後の福島で被災された方や避難された方のメンタルケアに従事。その後退職し、子どもの居場所づくりとして「KAKECOMI」を開始。「子どもまかない食堂」から始まり、女性や子どものための「セーフティシェアハウス」の運営、「ソーシャルワーク相談室」を行っている。

―――

さて研修会ですが下記のタイトルで行われました。

１回目…駆け込みのココロミ～自立しつながるソーシャルワークの試み～
２回目…自己責任社会に抗う①申請主義と制度のスキマ
３回目…自己責任社会に抗う②トラウマインフォームドとソーシャルワーク
４回目…自己責任社会に抗う③ジェンダーと貧困
５回目…カケコミのレシピ～自己責任社会に抗うためにひとりひとりに今できること～

鴻巣さんのバッググランドには、母親が外国人であった事で小学生の時にイジメを受け、家庭が一時困窮した過去があります。１年ほどでその問題は解決しましたが、「居場所がなく」「孤立した」経験は、その後も「世間を「色めがね」で見てしまう」。それは「トラウマ」であり、その「トラウマ」は「私には価値がない」という信念を積み重ね「人間関係が不安定でうまく生きる事ができなくなってしまう。

その「色めがね」をかけ世間を生きていく中で「同じ事を生まないためには何が必要なのかと考えた時に、日頃からつながりあえる、孤立しない、助けてと言わなくても気付き合える関係、どんな状態になったとしても家は失わないでいられる事としてこの取り組みにつながった」そうです。

そもそも「色めがね」をかけてしまう可能性の高い、脆弱性のある社会保障制度に問題がある事、そしてこの脆弱な制度のスキマから抜け落ちる「困っている人」の困りを「自己責任にしない」ソーシャルワークを体現しています。

最近の相談の具体例として、ハイティーン（18 才や 19 才）の女の子からの相談が増えているそうです。

「虐待で逃げている」といった理由で鴻巣さんのところに駆け込んでくる。18 才ではお金もないし、家は契約ができない。（4 月から民法改正で 18 才成人となったが）ケアや支援が必要という課題がある中で、そこには制度がない。

また DV 被害で逃げてきているが、DV 法は基本的に「配偶者」とされており、配偶者以外の DV では法の対象とはなりにくい現状があり、セーフティシェアハウスの必要性につながっているそうです。

この研修会、1 回 3 時間の講演会であったため、振り返ると沢山の学びとなったわけですが、鴻巣さんが話された話の中で印象に残った部分が下記の内容でした。

「人権というものに対する価値観のすり合わせを丁寧にしている。善意ではなく人権。善意は自分に権力がある事を忘れさせてしまい、いい気持ちにさせ、いい人になれると感じるので危うい。なので、善意ではなく人権を視点に考える事や動く事ができる事が大事。」そのため「私は権威を剥ぎ取ろうと常に意識している」という内容でした。

私自身、相談員をして 20 年弱になりますが、指摘されるように「いい気持ち」を求める部分があります。その事で失敗し、反省する事も多いのですが、人権から考え、社会構造の問題に目を向ける。申請主義の問題や逆境体験から生まれる「色メガネ」という「トラウマ体験」への理解、「ジェンダー差別構造」で排斥される人たち…の視点は、今後の私達の活動の課題として突きつけられているように感じています。

この研修会ではどの回も深く考える必要があり、自分の中での整理が及ばない、思考が追いつかない…といった感覚に囚われてしまい、この場ではうまくまとめられない事が多いのですが、自身の振り返りと併せ、鴻巣さんの事や鴻巣さんの活動や思考を知る事ができ、知らない方にも知って頂く事ができたらという思いから記事にさせて頂きました。

ホームページや Twitter、フェイスブック等で情報発信されているので、刺激が欲しい！という方はぜひともアクセス下さい。またミネルヴァ書房から「ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう！」という本も出版されていますので、ご興味がある方はご参照ください。

（京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」：大塚 秀樹）